

そうや自然学 第1回 「シラカバ」

▼基本情報

カバノキ科／落葉樹

Betula platphylla var. *japonica* hara

高さ 20m～25m／太さ 30～40cm

日当たりの良いところや山火跡地などに生える。

漢字 白樺 英語 Japanese white birch

アイヌ語 タツニ／レタツ・タツニ(白い樺皮の木)／キ・タツニ (光る樺皮の木)

用途 庭園・公園・街路樹,器具材,工芸物,パルプ材,割箸など

花言葉 いつまでもあなたを待ちます、忍耐強さ、光と豊富、柔和

古来、ゲルマン人の間では、生命・成長・祝福の木とされた。

その他 北海道における花粉症の要因となっており、シラカバ花粉症を発症した場合、高確率で口腔アレルギー症候群や果物過敏症を併発する。

▼アイヌとのかかわり

狩猟民族であるアイヌは、木の皮を剥いで即製のス(鍋)をつくり、煮炊きをしながら狩りを行っていた。スに利用されるヤラ(木の皮)は、大きく剥ぎ取ることができる白樺の樹皮が用いられた。

- ① シタツ (本当の樺皮<ウダイカンバ>) 樹皮が厚いためクチャ(仮小屋)の屋根を葺いたり、松明に使われた。
- ② メタツ (寒気・樺皮<エゾノダケカンバ>) 樹皮が薄く、傷口の手当や獣の肉を

包むために用いられる。

- ③ キタツ (光る・樺皮<シラカバ>) 樹皮の厚さが程よく、きめ細かく柔軟で加工しやすいことから、主としてスやピサック(柄杓)に使われた。

また、女性が成人した印として唇や手の甲にする入墨は、石器や刃物でつけた傷口に、シラカバの皮を燃やした油煙を取ってつけたものである。

▼樹液の利用と効能

春先のわずかな期間に溢出される樹液は、糖、アミノ酸、タンパク質や多種類のミネラルを含んでいる。フィンランドなど北欧諸国、ロシア、中国、韓国などでは、この樹液を病気に効くとして飲用する習慣がある。

アイヌの人々も飲料としたり、炊事用の水として利用し、シラカバ樹液をアイヌ語でタツニ・ワッカと呼んだ。

【参考文献】

佐藤 孝夫『新版 北海道樹木図鑑[増補版]』(有隣西社、2006年)

更科 源蔵・更科 光『コタン生物記 I 樹木・雑草篇』(法政大学出版局、1976年)

社団法人北海道自然保護協会『森と私たち -北海道自然保護読本-』(社団法人北海道自然保護協会、1988年)

福岡イト子『アイヌ植物誌』(草風館、1995年)